

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	筑波大学	整理番号	R01
プログラム名称	エンパワーメント情報学プログラム		
プログラム責任者	稲垣 敏之	プログラム コーディネーター	岩田 洋夫

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、リーダーの具備すべき3つの能力（「分野横断力」、「魅せ方力」、「現場力」）を育成する教育プログラムが定着・運用され、学生が本プログラムに専念することにより独自の学位を取得できることは高く評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、異分野複合研究指導チームによる支援体制が構築され、また、エンパワースタジオ及びその近隣に位置する学生寮では国際性が日常化されているため、この知的環境を通して自己開拓型教育指導が展開されることによって、学生が自己設計する力を獲得することや、そこから育つグローバルリーダーの活躍が期待される。さらに、学生が国内外のコンテストに積極的に参加して多数の賞を受賞していることや、海外での発表の機会により汎用力の養成に効果をあげていることなど、必要となる能力をカリキュラムの様々な場面で育成していることは評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、上記の異分野複合研究指導チームによる研究指導が行われ、これに基づく本プログラムの達成度審査と、D5における全学学位論文審査会の評価を併置し、客観的な審査を担保していることは評価できる。

優秀な学生の獲得については、「Top of Tops」のエリート候補生を選抜するために多角的なリクルート活動を実施し、多様で優秀な学生を発掘・獲得していることは評価できる。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、エビデンスベースの評価基準と項目を構築し公開していることから、極めて客観性と透明性が高いと評価できる。さらに、ディプロマサプリメントを発行することでプログラムの学修内容を第三者にも開示している点は、質保証のシステムが機能していると評価できる。

事業の定着・発展については、本プログラムを先駆けとして全学の大学院教育組織の再構成の実施を決定していることや、学生にとって関心の高い支援期間終了後の奨励金継続について学長が明言している。プログラムによって全学を改革し定着させようとする強い意志と、計画の具体化が確認できたことは評価できる。

さらに、本プログラムの主旨を汲み、申請時の計画に追加してアントレプレナー教育を実施し、グローバルリーダーシップの育成に効果をあげていることも評価できる。